

コンクリート診断士は技術者の基礎資格に

インフラ施設の維持補修が本格化する中、コンクリート診断士の役割が日増しに高まっている。そんな状況下、全国の中でも先進的な取り組みを実践する福井県コンクリート診断士会(石川裕夏会長)は12月3日福井市内で「他地域での維持管理の取り組みや事例を学ぶ研修会」を開催。日本コンクリート診断士会の林静雄会長(東京工業大学名誉教授)の特別講演と静岡、石川、広島の診断士会会長とのパネルディスカッションを行った。

他地域から学ぶ維持管理と診断士の役割



地産地消 地産地消 地産地消
石川会長と語る維持管理

福井診断士会が静岡、石川、広島と研修会

冒頭あいさつに立った、福井県の石川裕夏会長は「今から11年前、平成16年に設立した時はわずか13人だった。だが現在は正会員110人、賛助会員30社余りなり地域に密着した活動を展開するまでになった。当会のスローガンは、維持管理こそ地産地消で地域への愛着を掲げ、地元自治体との連携・協調を行って」と取り組みを紹介した。

日本コンクリート診断士会の林静雄会長は「建築においてコンクリート診断士に期待すること」と題し、特別講演を行った。

林会長は「建築分野では平成7年の阪神大震災後、耐震補強が急激に広がったように、土木分野でもインフラの維持補修が本格化しつつある。全国で1級からこそ、コンクリートと総括した。」

林会長と3県会長によるパネルディスカッション

その後、静岡、石川、広島の3県の会長が、診断士会の取り組みを紹介した。

石川県の古川博人会長は「北陸は過酷な気象条件で、塩害、凍害、ASR(アルカリ骨材反応)とこれらがダブル、トリプルで劣化が起きてくる。そのため技術研修会を重点的に実施している」と述べた。また、内閣府のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)では金沢大学や石川、福井、富山県の官、産、診断士会などが連携したインフラ維持管理・更新・マネジメント技術を進めていくことを報告した。

パネルディスカッションでは、コンクリート構造物における維持管理の課題や、自治体への技術支援、市民へのコンクリート診断士の啓蒙普及についてなどが討議された。広島県の米倉亜州夫会長は「コンクリートの品質向上に向けた劣化に対し、徐々に高まっている。そのために当会では、広島平

から学ぶこれからの維持管理とコンクリート診断士の役割



林会長と3県会長によるパネルディスカッション

林会長 「建築士との連携進めて」

構造物に関わる技術者の基礎資格であり、そのためには建築士との連携が不可欠になる」と述べた。また林会長は「診断士会へ大学や自治体を特別会員として、無料で入会してもらえば視野が広がる」と述べた。